令和２年３月30日

多摩リハビリテーション学院専門学校
学院長　石田　信彦　殿

学校関係者評価委員会
委員長　池田　隆純

学校関係者評価委員会報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１．学校関係者評価委員
委員長：池田隆純（医療法人社団和風会リハビリテーション部長）
委　員：奥山浩太（所沢中央病院 技士長）
加藤哲禎（老人保健施設メディケア梅の園 事務長）
鈴木康雄（多摩リハビリテーション病院 技士長）
高木博之（所沢リハビリテーション病院 事務長）
人見太一（文京学院大学保健医療技術学部）
松井　充（所沢リハビリテーション病院 技士長）

２．学校関係者評価委員会の開催状況
第１回委員会：令和元年　９月　９日（月）〔会場：パレスホテル立川〕
第２回委員会：令和２年　１月31日（金）〔会場：多摩リハビリテーション学院専門学校〕
第３回委員会：令和２年　３月25日（水）〔会場：多摩リハビリテーション学院専門学校〕

３．学校関係者評価　結果報告
別紙のとおり

以上

令和元年度　学校関係者評価　結果

重点目標
１．入学者の充足、２．退学者の減少、３．就職内定率の向上、魅力ある校友会研修会の実施

評価基準１：教育理念・目標
□　概ね適切である
コメント
教育理念、教育目標も明確に構築されており、学生便覧や学校ホームページで公表していることから、職員、学生、保護者にも周知されている。教育理念である「地域社会・地域医療への貢献」は、時代のニーズに即した素晴らしい理念であり共感できる。教育目標である「謙虚な気持ち・感謝の心」は、実際に就職し、対象者と接することを考えれば当然必要なことである。教育理念や教育目標は、学校内に掲示し、在学中にしっかりと身に付けられるようにすることを期待する。
「地域医療に貢献できる人材」を考えたとき、それぞれの知識を有した専門家であると共に、全体を俯瞰できる総合的な医療人を育てることが必要である。そのためには、病院外でのリハビリテーションサービスに対する実地を踏まえた教育がさらに充実すると良い。「地域社会・地域医療への貢献」という教育理念が、受験者や保護者だけでなく、地域の皆様にも浸透するような工夫が必要である。

評価基準２：学校運営
□　概ね適切である
コメント
運営に関する各種会議・委員会も開催しており、教職員の意思統一もできている。教職員に対して収支報告を行うなど、適切な学校運営がなされている。また学校法人理事会・評議委員会、学校関係者評価委員会の開催や、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構などの外部評価（第三者評価）も受けており、適切な学校運営に努めている。カリキュラムにも問題なく、時代の変化に絶えず適応できるように改訂、検討していることは素晴らしい。教育目標に沿って、多岐にわたる分野別指導方針が立てられている。授業内容も到達目標をシラバスで明示し、わかりやすい工夫がなされている。
一方、人事・給与に関する規程、情報システム化等による業務の効率化などは解決が求められる。人事・給与に関する規定に関しては、他校の人事考課方法も参考に３学科間での連携を強化し、業務量の均等化や効率化を図って頂きたい。研究実績による報奨金や東京都私学財団での研究費助成を利用することも検討されたい。次年度から医療法人社団和風会・学校法人和風会で始まる情報システム部会にて専門家からの助言を受け、業務の効率化が図れるようになることを期待する。

評価基準３：教育活動

□　適切である

コメント

教育理念に沿った教育活動が適切に行われている。学生に対してカリキュラム（教育課程）の周知、授業評価アンケートの実施、その結果を教員へフィードバックすることで授業の質の向上に努めている。学生に授業評価アンケートを行うことで、授業がどのように改善されてきたかを考察頂きたい。

最終目標は、国家試験合格であり、到達レベルは明確である。ディプロマ・ポリシーや各学年での到達目標もシラバスで明示しており、わかりやすい。また、各種職能団体の教員研修会等に参加することで新カリキュラムへの対応もできている。

病院で働く立場から見ると、卒業生の多くは専門的知識を有し、人間的にも素晴らしい。専門家としてだけでなく、医療人として、社会人として必要な人間性にもさらに磨きをかける指導を期待する。

令和２年度から新カリキュラムとなり、実習を取り巻く環境が大きく変わろうとしている。教員は各種研修会に積極的に参加し、スキルアップできる環境づくりができている。今後は、実習指導者に対する教育も養成校に求められており、実践されることを期待している。

評価基準４：学生指導等

□　適切である

コメント

学生と比較的近い距離感で、親身に適切な教育や指導が行われている。教員の公的なメールアドレスを学生に公開し、常に対応できる環境が整っている。定期的な学生の面接、成績が思わしくない学生へのフォローアップなど、保護者との連携も含めて、確実にできている。面接やご意見箱の設置により、学生が悩みを打ち明ける手段が複数あることは評価できる。

また臨床心理士を常駐させ学生の心理面のサポートを積極的に行っている。次回の学校関係者評価委員会で、この取り組みに対し、どのくらいの頻度で対応しているか、具体的な数字を出してほしい。

多様化する要請に対し、柔軟な対応をしている。就職活動に関する取り組みも行っている。今後は、災害時に備えた避難訓練をさらに充実することも重要である。

評価基準５：特別活動等

□　適切である

コメント

専門学校として学業優先の環境下において、クラブ活動、スポーツ大会、文化祭、合宿、各種講座の実施など、限られた時間の中で上手く行っている。クラブ活動を通じ、先輩後輩の交流があるのは良い。社会人育成という視点で様々な研修会（マナー講座、税の講座など）を設けているのも良い。

地域や学内の交流が盛んにおこなわれている。学生主体での地域交流が活発になれば更に良い。３学科合同症例報告会の近隣施設への案内をより早期に送付して頂きたい。

評価基準６：学修成果

□　概ね適切である

コメント

国家試験合格率は、全国合格率や専門学校の平均に比べ、かなり高い数値を保っており、学修成果として十分な指標となっている。これを維持向上してほしい。

資格取得に必要な知識・技術の涵養は工夫され、適切に行われている。近年、小中高校生の学力の低下が問題となっているので、「国語」や「算数」の指導、また既にマナー研修は行われているが、「礼儀作法」の指導にも力を入れてほしい。

退学者は、専門学校の平均退学率を下回っている。その中で、国家試験合格率は、作業療法学科・理学療法学科・言語聴覚学科のすべての学科で全国合格率を上回っており、非常に評価できる。今後も退学率を抑えるために、面談などの対策を行い、退学率の減少を目指してほしい。さらに、退学してしまった学生のフォローもお願いしたい。

評価基準７：学生支援

□　適切である

コメント

学生支援として、さまざまな支援制度を設けており、学生が学ぶ場として十分な環境調整がなされている。奨学金、学費免除、後納制度、減額・割引、専門実践給付金制度の活用、高等教育無償化（給付型奨学金・授業料等減免）の対象校になるなど学費に対するフォローアップ体制は充実しており、評価できる。奨学金制度について整備され、丁寧に説明されている。

就職支援では、就職活動講座や説明会も行っており、適切に実施できている。卒業後も校友会等の研修会で継続したつながりをもっているため卒後のフォローアップもできている。さらに卒業生に対してアプローチすることを期待する。社会的な介護人材の不足に対し「介護福祉学科」の増設を検討するなど、社会のニーズを踏まえた教育環境の整備がなされている。

評価基準８：教育環境

□　概ね適切である

コメント

建物の修繕も適宜行っており、施設・設備は快適に教育を受けられる配慮がなされている。ただ、医療・リハビリテーション分野も日進月歩で進んでいるので、時代の変化に合わせた機器の導入を検討することが必要である。2020 年度からの新カリキュラムに対応した機器の導入に期待する。

開設当初は、医療法人設立の学校であったため、学校法人になった現在でも実習環境は充実している。評価実習ミーティング、臨床実習指導者連絡協議会以外にも学院主催で勉強会(実習での事例検討等)の実施をしても良い。実習環境ではハード面よりソフト面で、実習指導者への教育が課題である。

学内の wi-fi 環境は、基礎作業実習室１でのみ、学生の使用が可能である。図書室は、医療・福祉系

雑誌が充実している。文献検索システムの導入もお願いしたい。学内のパソコン機器の整備、さらなるネット環境整備が課題である。

評価基準９：学生募集

□　一部改善すれば適切である

コメント

各種の入試方法や学費サポートを含め、学生募集の周知活動、啓蒙活動等、学生の絶対数が減少している中でよく行えている。定員割れが生じている学校が多いなか、理学療法学科、作業療法学科ともに常に定員を満たしており、学生募集活動の成果が出ている。体験会や個別見学会といった意欲的な活動は高評価である。授業料などは他校と比較しても安価であり問題はない。長年の学生募集活動、卒業生の地域への貢献により、西多摩地域で学校が認知されてきていることも大きい。

一方、言語聴覚学科の学生募集における定員充足が課題である。言語聴覚学科の教員を中心として様々な取り組みはなされているが、言語聴覚士の必要性の啓蒙が不十分であり、地域住民に対してさらに積極的な啓蒙活動が必要である。

評価基準１０：法令等の遵守

□　適切である

コメント

関連法規に従い適切に運営されており、特に問題はない。個人情報の取り扱いも適切であり、学生に対して個人情報の教育も適切に行われている。実習で関わった対象者の情報も適切に管理できている。

評価基準１１：社会貢献・地域貢献

□　概ね適切である

コメント

地域のイベントである青梅市新緑祭や介護予防教室などの公開講座に対して講師派遣や施設使用の協力、学会や研修会への参加など積極的に取り組まれている。学生ボランティア活動のサポートは充実しているので、学生が自主的に参加することを期待する。学校施設の貸し出しマニュアルもあり、必要に応じて適切に運用されている。